

9月13日(火) うみべのもり保育所の公開保育を実施しました。

3つの公立保育所が統合し、創設2年目を迎えたうみべのもり保育所において公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生よりご指導をいただきました。

新しい環境の下、新たな保育、そして文化を築いていく途上の保育所として、公開保育にチャレンジし、皆様から多くのご意見をいただくことができました。あいにくの雨模様でしたが、雨が降った後ならではの泥団子作りやどろんこ遊び、参加者も巻き込んだお化け屋敷ごっこ、スライムや泡を使った感触遊びなど、各年齢に合わせた活動が展開され、その年齢発達に合わせたねらいが設定されていました。

また、「舞鶴市の乳幼児教育ビジョン推進事業～質向上研修～」に関心を示していただいた研究者や乳幼児教育に関わる方々が視察され、貴重なご意見をいただく機会ともなりました。皆様からいただいたご意見も詳しくご紹介したいと思います。

参加園/校

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
さくら保育園	西乳児保育所
タンポポハウス	朝来幼稚園
平保育園	橘幼稚園
なかつじ保育園	舞鶴幼稚園
東山保育園	
やまもも保育園	三笠小学校
八雲保育園	
ルンビニ保育園	

質問の構造化をはかる。すぐに答えられる質問「やってみてどうだった？」を聞く次に、少し考えて答えられる質問「どうしてやってみたと思ったの？」と聞く

～北野先生のコメントより～



＜0歳児～安心できる居場所、応答的なかかわり～
 発達に合わせたおもちゃ（引っ張る、入れる、出す）や滑り台、つかまり立ちできる柵等の環境が整えられていました。自分で好きな遊びを選んでじっくりと楽しむことができ、保育

者はその遊びや子どもの思いに応答的に関わる姿が見られました。

北野先生より

◎ゆったりとした空間に一人に1個ずつのおもちゃがあり、環境が活かされていた。

◎遊びたいおもちゃがあり、自分の居場所があるので、落ち着いて穏やかであり、子どもたちが安定していた。

◎一人ひとりの遊びに保育者が応答的に関わっていた。子どもの（保育者の顔を見て伝えたいという）意志、気持ちが育っている。（言葉の獲得においてとても大切）

◎パラレルトーク（子どもの行動や気持ちを言語化する）を増やすとよい。子どもの発した「あーあー」の言葉を言語化する。

◎保育者の顔を子どもが見たら表情豊かに応答するとよい。

＜1歳児～スライム、ままごと遊び～＞

スライム（感触遊び）、ままごと、スティック遊び、運動遊び等の環境が整えられ、それぞれ自分で好きな遊びを選んで楽しんでいました。子どもが大人に顔を向け、視線を合わせる姿が見られ、伝えたい気持ちや意思が育っていることが感じられました。

北野先生より

◎運動遊び：起伏や、高い低い（0歳児クラスにあったような）があるとよい。足の裏で感じられる感覚もあるといい。（アルミホイルでくるんで冷たさなど足ざわりの違いを感じる）

◎ままごと：ままごとのキッチンの場所を壁側に変えてみてはどうか。ままごとをしていて向こう側が見えると落ち着かない。いろいろやってみて子どもと楽しんでほしい。

◎スライム：スライムをした後、保育者の顔を見る。普段から丁寧に関わっているのがよくわかる。子どもが何かした後、保育者は顔を見る。しゃべってなくてもいっぱい気持ちを伝えようとしている。汚れることも気にしない、制限がないのがよかった。



＜2歳児～ごっこ遊び～＞

泡遊び（感触遊び）、ままごとやお店等のごっこ遊び、玩具（電車、ブロック）での遊びをそれぞれが楽しんでいました。

北野先生より

◎ごっこ遊びでは、役になりきって言葉を使ったり、立場をわかってのやりとりをしたりと、成長が感じられた。

◎保育者の肯定語、受け入れ語が多かった。

＜4歳児～振り返り～＞

振り返り場面では、子どもたちが話を聞こうという姿勢で、自分の思いも伝えようとする気持ちが感じられました。

北野先生より

◎子どもの名前がたくさん出てきて、よく話している。

◎実物を見せて話をすすめるのはよかった。

◎振り返りで話すトピックは一つに絞るとよい。子ども同士で会話が続くようになっていくとよい。



＜5歳児～おばけ屋敷ごっこ、振り返り～＞

鏡を使った遊びから光と影の関係性に興味を持ち、暗い場所でライトをつけ、手や体の影が映る遊びを楽しむ中で、3歳児が夏祭りから継続していたおばけ屋敷ごっこがつながり、異年齢での遊びとなっていました。おばけ役の人、お客さんを案内する人、おみやげを渡す人、お化け屋敷を修理する人等いろいろな役割を分担し、楽しんでいました。

北野先生より

◎5歳児は、いろいろな素材を使って工夫すること、協同的な遊びを意識してほしい。

◎振り返りでは、対保育者ではなく子ども同士となるように意識する。

◎質問の構造化をはかる。まずは、すぐに答えられる質問「やってみてどうだった？」を聞く。次に、少し考えて答えられる質問「どうしてやってみたと思ったの？」と聞く。その中で、他の子が、「○○ちゃんは、□□しようと思ったんちゃう？」「△△したらいいと思う」等、意見が出せるとよい。



公開保育カンファレンス

子どもの姿から、環境構成や関わり方を考えてほしい

～北野先生より～

【環境】

◎0、1歳児の環境では、自分の居場所があることが大事である。少し、隅の方に一人だけの狭い空間があるとよい。そこでじっくりと遊べるのではない。

◎2歳児でも、ままごとコーナーは囲われており、安心できる場所となっていた。また、イメージしやすいように冷蔵庫やエプロン、お弁当箱等を配置するなどの工夫が見られた。

◎3歳児は遊戯室を使って遊んでいたが、遊戯室とのつながりが部屋から見えない。子どもの目線にロッカーがあり、邪魔している。何をして遊んでいるのか、つながりを意識して境界を構成する。ロッカーを廊下へ出してよいのでは？

◎遊戯室の音響が悪い。響く。聞こえにくいので子どもが大きな声を出してしまう。良い音環境は大事。

【保育者の関わり】

◎特に乳児は、応答的な関わりを大切にします。

☆パラレルトーク（子どもの行動を言語化すること）：子どもが主語になるように「○○ちゃんは～したいんだね」「○○くんが～してるね」

☆子どもの発した言葉「あ～」を言語化：「きれいだね」「動いてるね」

☆共感する言葉：「あったね、よかったね」「おもしろいね」「かなしいね」「いやだったんだね」「○○しようと思ったんだね」

◎1歳児が運動遊びのところへ他のおもちゃを持って行った場面があった。保育者は「あっちで遊ぼうね。」と元の場所へ返そうとしたが、なぜ、そこに持ってきたのか、なぜ、そこに来たかったのかを

考えてほしい。

◎「一人占めしたかったのか」「一人でゆっくりできる場所を求めていたのか」子どもの姿から、環境構成や関わり方を考えてほしい。

◎スティック遊びは、テーブルを囲んでするのではなく、個々の空間が必要かもしれない。

◎2歳児のごっこ遊びでは、役になりきって言葉を使ったり、立場をわかってのやりとりがあった。保育者の肯定語、受け入れ語が多かった。

◎3歳児の保育者は言葉や表情、全身をつかって遊んでいた。年齢が低ければ低いほど、保育者が見本やモデルになりいっしょに遊ぶことが必要である。

視察の皆さんより

環境構成は、「いつでも、どこでも、何度でも」が大事

～溝邊先生より～

【相馬靖明先生～和泉短期大学准教授～】
場の使い方、環境を見直す
～今日の遊びの姿から明日の環境構成へとつなげる～

◎指導案の中に遊戯室の遊びがなかったので、もう一度場の使い方や環境構成を見直す。

◎5歳児：樋で高低差をつけて泥ボールを転がす遊び⇒明日の遊びの場の設定をどうして作って行くか？

◎4歳児：丸い水たまり、とろとろねばる土 葉っぱのケーキ？魚？見立てる⇒明日の遊びの場の設定をどうして作って行くか？

◎3歳児の指導案にある「紙遊び」は単なる紙遊びではなく、作ったモノを使って遊ぶ、何かになるために作って見立てて遊ぶモノである。

【木村明子先生～保育・教育関連の本の著者～】

◎五感を使っている子どもの姿が見られた。

◎子どもからの視点で見ようとする保育者の姿も感じられた。

◎遊戯室の音が響きやすい。保育者の声、子どもの声、ともにどのように響き伝え合えるかが大事ではないかと思う。可能であれば天井に吸音材をつけるとよいのではないか。

◎大きな園舎内外の見取り図を手に、そこに子どもたちの様子～遊びの様子をメモしていくと全体が「保育の俯瞰図」となるのではないか。

【伊藤美佳先生～東洋大学講師、お茶の水女子大学大学院～】

0～2歳児は、素材との関わりを大切に！

◎0歳児が、雨、水を感じ、手や足でさわっていた。保育者は、「冷たいね」等の言葉をかけていた。

座りこんでお尻で感じている姿もあった。◎1歳児が体全体で感触を楽しむ姿や手や足で楽しむ姿が見られた。

◎どちらも保育者が止めてしまう場面があり、残念だった。

◎2歳児の指導案の中に素材の感じ方、違い等の評価の観点が少ないように感じた。見立て遊びややりとり中心の指導案になっていたため、素材の変化や不思議さを感じ、試すことも入れてほしい。

【中西エリナ先生～保育講師～】

◎保育者が意識して、考えて声をかけている。次につながる言葉「新しいあそびだね」「おもしろいね」をかけられ、子どもは誇らしげにまた遊び始める。

◎同じものを同じ視点で気持ちよく見ることができた。

◎粘土のボールと樋遊び：割れるボール、割れないボールを一人で試している場面と、みんなで早く転がそうとする場面、ゆっくり転がすことを楽しむ場面が見られた。同じ遊びでもいろいろな工夫が感じられた。

◎収納する場所が遊びの切り替えにもなり、交流の場にもなっていると感じた。

◎振り返り：もっと子どものおもしろい発言を受け止めるとよい。

【田島大輔先生～お茶の水女子大学子ども園～】

◎3歳児：廊下、遊戯室、部屋をどう使うか？場所、人、ものとの関係性アクセスする環境構成にする。

◎デイリー、生活の流れをどう作るか？トイレや水分補給の時間をどう取るか？

◎2、3歳のつながりをどうするのか？

◎振り返りのスタイルは、その子どもにとってどうなのか？保育者のねらい重視なのか？みんなでやることの意味はあるのか？

【溝邊和成先生～兵庫教育大学大学院教授～】

環境構成は、「いつでも、どこでも、何度でも」が大事

◎小学校から見て、5歳の力

・光の遊びの場面：子「緑色になった」先生「なんで？」「他のはどうなる？」子「他のはならん」との会話をした後友達に見せて説明していく姿が見られた。まさに、サイエンスの芽生えである。

◎乳幼児期に体験をいっぱいしてほしい。小学校の準備ではない。

◎子どもが発見すること：子「大発見だ」先生「すごい発見だね」と、子どもの言葉を丁寧を受け止めていた。

◎思考していく、発見していく＝芽生えは乳幼児期にある。

視察にお越しいただいた諸先生方、多くの学びをいただき、ありがとうございました。



9月12日 ドキュメンテーション グループワーク

参加園



4つのグループ（1グループ6～7人）に分かれて、ドキュメンテーション（0、2、3、4歳児）を元にグループワークを実施しました。視点を定めるためのワークシートは、ドキュメンテーションを書く視点と同じでもあり、園へ持ち帰って活用していただけたと思います。また、今回は、遊び（保育）を発達の視点でとらえるために保育所保育指針から「第2章子どもの発達」を抜粋し、年齢発達を意識して検討していただきました。それぞれのグループで活発な意見交換が行われました。視察に来ていただいた先生方からも貴重なご意見をいただき、今後ドキュメンテーションを書いていく上で大切な視点を学ぶこともできました。

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
さくら保育園	西乳児保育所
タンポポハウス	朝来幼稚園
平保育園	舞鶴聖母幼稚園
なかすじ保育園	舞鶴幼稚園
東山保育園	
やまもも保育園	
八雲保育園	
ルンビニ保育園	

グループワーク(助言より)

「できた」「できない」ではなく、体験・経験の中で親しみ、技術を獲得したというふうによく書くとよい。
～北野先生より～

【北野先生～指導・助言～】

- ◎子どもの姿、会話、行動と書き手の解釈は分けて書く。
- ◎保護者には、事実と解釈が分かれて見えるほうがより伝わる。
- ◎「できた」「できない」ではなく、体験・経験の中で親しみ、技術を獲得したというふうによく書くとよい。
- ◎時系列で、育ちのプロセスを記述する。
- ◎ドキュメンテーションの中に含まれるべき要素
 - ・時系列的視点
 - ・発達の要素
 - ・学びの要素
 - ・育ちの見通し
 - ・保育者の工夫
 - ・5領域との関わり
 - ・教育的配慮
 - ・道具との関わり
- ◎乳幼児教育は、学びに向かう力、心情・意欲・態度を育てている。○○で思考力が育っている。○○で協同性が育っている。というように、事実に基づいた子どもの姿を書くようにし、その説明の仕方に慣れていくとよい。

- <0歳のドキュメンテーションに対して>
- ◎保育をする際に配慮したことをもっと書くべきである。
- ◎活動のねらいを発達に合ったものにしていくことが重要である。
- ◎五感をどのように使っているかを記述していく。
- ◎この時期「繰り返し」することの意味も教育的観点から保護者に発信していく。
- <1、2歳児のドキュメンテーションに対して>
- ◎試行錯誤しながら体験、経験的に学ぶことが大事。
- ◎保育者が意図して関わったことを書いていく。
- ◎試したり、考えたり、大切にしていることを入れるとよい
- ◎道具との関わりや物を媒体とした子ども同士の交流を書く。
- ◎1、2歳の集団保育の意味が書かれているとよい。
- ◎一緒に体験経験し、楽しかった、よかったということが、後の他者への思いやりにつながる…というように、発達の見通しも

入れていくとよい。

- <3歳のドキュメンテーションに対して>
- ◎集団の醍醐味、友達と遊ぶ意味をいれるとよい。
- ◎3歳の模倣の特徴、遊びの変化と展開、発達の視点を加えるとよい
- ◎保育者の工夫や環境を遠慮せず書いていく。
- <4歳児のドキュメンテーションに対して>
- ◎経験的に育った姿、育てほしい姿を分けて書く。
- ◎“こんなふうで育つ”経験、体験を大事にしていることを書いた上で、経験とともに育った姿であれば、得た知識、技術を書いてよい。
- ◎子ども一人一人の視点を追うことも大切。
- ◎思考力、判断力、表現力等の基礎を乳幼児期で育て、小学校以降の知識と技術、活用力、応用力につながる。乳幼児期に育てたい力をイメージしながら保育をしていくことが大事。

子どもの遊びのどこにフォーカスを当てるのか。

どの部分を一番伝えたいかという視点で場面を決めるとよい。

～相馬先生より～

【相馬靖明先生】

- ◎子どもの遊びのどこにフォーカスを当てるのか。どの部分を一番伝えたいかという視点で場面を決めるとよい。
- ◎誰か一人にフォーカスをあててドキュメンテーションを作成すると、その子がどんな学びやとらえ方をしているのかが見えてくる。
- ◎個にばらした記録から編集をすることも大切である。

【木村明子先生】

- ◎ドキュメンテーションを外向けに発信

- する際は、園名、クラス名、園児数が書かれているとよい。
- ◎子どものしぐさや様子、発話（事実のこと）と先生が推察している子どもの頭の中でのこと、これらの表現を分けると情動が追える。
- ◎子どもが言葉を発していない時、子どもの写真に吹き出しをつけると集中している時には“無”になるであろう。そこは大事な空っぽの吹き出しである。その集中している時間を読み取り、書くことで保護者に伝わるのではないか。

【中西エリナ先生】

- ◎全体を引いて見て広い視点で追ったドキュメンテーションにするより、小さく分けて、一部分を追うとよい。
- ◎できるようになったことにフォーカスを置くと、こうならなければいけないの…と保護者がとらえてしまう。できないことを指摘するようなことにもなりかねないので、気をつけたい。
- ◎遊びのプロセスを追っているのだから、子どもの学びを切り取る文章にするとよいと感じた。

指導案

- ◎遊びのねらいの立て方は、子どもの姿（現在子どもが興味を持っていること）→発達・課題（つけてほしい力）→ねらい

へと子どもの姿と遊びのねらいをリンクさせていく。

- ◎保育を組み立てる順番としては、①子どもの姿 ②ねらい ③評価の観点 ④教材、環境、準備 ⑤実践 ⑥評価
- ◎評価の観点は、子どものどんな姿にねら

いの達成を見取るのかを具体的に書くことが大切。子どもの姿から評価の観点をつくる。

- ◎上記の観点で部分指導案（30分～40分）を立てることが、構造的に保育を考えることにつながる。